

令和6年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会 会議録

日時 令和6年5月31日(金) 午後1時55分～午後2時45分  
場所 市民会館・萌え木ホール 3階 B会議室  
出席委員 8人  
委員長 浅野 正道 委員  
委員 金井 誠 委員(副委員長)  
橋本 洽祐 委員 黒須 よし江 委員 加辺 博之 委員  
兵頭 友幸 委員 浦野 知美 委員 山本 雄一 委員  
欠席委員 2人  
委員 平井 正博 委員 木村 安里 委員

---

事務局 児童青少年課長 平岡 美佐  
児童青少年係長 鈴木 拓也

---

傍聴者 0人

# 1 開会

平岡課長

本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

令和6年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会を始めさせていただきます。

私は児童青少年課長の平岡と申します。この4月に児童青少年課長に異動となりました。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして事務局から何点か御案内させていただきます。

本日の委員会につきましては、平井委員と木村委員から事前に欠席の連絡を頂戴しております。現時点で会議充足数を上回っておりますので、こちらの出席で会議が成立するということになりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の配付資料についてですが、次第のほか、次第の下部に配付資料の一覧を記載しておりますので御確認いただきまして、過不足等ございましたら事務局にお申し出ください。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと存じます。本来、進行につきましては専門委員長をお願いをしているところではございますが、委員改選後初めての専門委員会となりますことから、委員長が決定するまでの間、私のほうで進行を務めさせていただきます。何とぞよろしくお願いいたします。

なお、本委員会につきましては会議録作成のため録音をさせていただいておりますので、発言の際にはお名前をおっしゃっていただいている御発言をお願いいたします。

議題に入る前に、改選後初めての委員会となりますので、委員の皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。配付資料1として専門委員会委員名簿を配付しておりますので、併せて御覧ください。

それでは、名簿の記載順にお願いしたいと思います。

初めに、橋本委員からお願いします。

橋本委員

こんにちは。6地区連合会から来ております、橋本です。よろしくお願いいたします。

平岡課長

どうぞよろしくお願いいたします。

黒須委員、お願いします。

黒須委員

小金井市子供会育成連合会から参加しています。三小・緑小ブロック代表の黒須です。よろしくお願いいたします。

平岡課長

よろしくお願いいたします。

加辺委員、お願いします。

加辺委員

加辺です。黒須さんと一緒に子供会育成連合会で会長をやっております。今回はP連の代表として参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

平岡課長

よろしくお願いいたします。

兵頭委員、お願いします。

兵頭委員

兵頭です。社会福祉協議会、社協と呼ばれますけど、そこから参加しております。よろしくお願いいたします。

平岡課長

ありがとうございます。

では、浦野委員、お願いします。

浦野委員            こんにちは。浦野知美です。民生委員児童委員協議会から出向しております。主任児童委員を務めております。どうぞよろしくお願いいたします。

平岡課長            よろしく申し上げます。  
山本委員、申し上げます。

山本委員            山本雄一と申します。私は北多摩東地区保護司会小金井分区より出向させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

平岡課長            お願いいたします。  
金井委員、お願いいたします。

金井委員            小金井市立南中学校校長の金井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

平岡課長            浅野委員、お願いいたします。

浅野委員            小金井第一小学校校長の浅野と申します。金井委員共々、市立小中学校長会を代表して参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

平岡課長            よろしく申し上げます。  
ありがとうございました。  
なお、本日は欠席となってございますが、多摩府中保健所の平井委員、保護観察所立川支部の木村委員を加えました10人の構成となっておりますので、よろしくお願いいたします。

                         続きますして、事務局の紹介をさせていただきたいと存じます。  
改めまして、児童青少年課長の平岡と申します。よろしくお願いいたします。  
続いて、事務局の児童青少年係長の鈴木でございます。

鈴木係長            鈴木です。よろしくお願いいたします。

平岡課長            以上の体制で進めてまいりたいと思いますので、皆様、これからよろしくお願いいたします。

## 2 議題

平岡課長            それでは、ここから議題に入らせていただきたいと思います。議題1、委員長及び副委員長の選出についてを議題といたします。

                         小金井市青少年問題協議会条例及び条例施行規則においては、専門委員長及び副委員長の選出方法に特段の定めはなく、慣例として市立小中学校長会選出の委員から選出をさせていただいております。委員の皆様から選出方法について特段の御意見がなければ、今期もそれに倣っての選出とし、前期に引き続き、委員長に浅野委員、副委員長に金井委員を選出したいと考えております。

                         委員の皆様御異議がなければ、事務局案のとおり選出したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

                         (「異議なし」の声あり)

                         ありがとうございます。御異議がないようですので、委員長に浅野委員、副委員長に金井委員を選出することといたします。よろしくお願いいたします。

                         それでは、委員長が選出されましたので、ここからは委員長に進行をお願いしたいと思います。浅野委員長、よろしくお願いいたします。

浅野委員長            それでは、ただいま委員長に選出されました浅野です。皆様、どうぞよろしくお

願いをいたします。

資料2が配られておりますけれども、そこに参考として過去の調査テーマ、一覧になっているようです。

今期の調査テーマをこれから皆様の御意見をいただきながら決めていくんですが、私もこの5期前の家庭の教育力を高めると、ここからずっと関わっておりまして、それぞれ地域力、子どもの居場所、子どもの権利、コロナ禍の実態という調査テーマでアンケートを取って、リーフレットにまとめるようなことを続けてきています。

今期も新たなテーマに基づいて調査をされるということですので、ぜひ御協力をよろしくお願いいたします。

では、今期の調査テーマについて、初めに事務局からの説明をお願いいたします。

鈴木係長

今期の青少年協議会における調査テーマの決定について事務局より説明させていただきます。

本日のこの専門会議において、今期の青少年問題協議会における調査テーマの決定をしたいと考えております。

令和6年2月26日に開催いたしました第1回青少年問題協議会の本体会議において、今期の調査テーマにつきましては専門委員会を設置の上、決定することとなりました。

専門委員会で調査テーマを決定するに当たり、本体会議の委員より取り上げてもらいたいテーマ等があれば事前に事務局までお知らせいただくよう本体会議にてお願いをしていたところです。

配付資料2を御覧ください。項目1に青少年問題協議会の協議事項について記載をさせていただいております。青少年問題協議会では、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関することを協議事項としており、表内に記載しているような内容が主な協議項目となっております。

項目2、こちらに本体会議終了後、委員の方からいただいたテーマ案を記載しております。

結果として委員の方から合計3件のテーマ案の意見をいただきました。

内容といたしましては、「インクルーシブ保育・教育・遊びの実態」、「ギガスクール構想下の子ども、先生、保護者の実態」、「子どもの遊びの実態」の合計3件となっております。

なお、資料下部に参考として過去の調査テーマを記載しています。調査テーマの決定に当たっては、委員の方から事前にいただいたテーマ案及び今の子どもたちを取り巻く状況や、御出席いただいている皆様が関わっている団体等での状況を踏まえてこの場で御意見をいただき、本日決定したいと考えております。

最後に、今後のスケジュールについて説明させていただきます。配付資料3を御覧ください。本日を含めまして今年度専門委員会は現状4回の開催を予定しております。本日、調査テーマを決定し、その後、8月開催予定の第2回において調査テーマに関するアンケート調査内容を決定、その後、本体会議を開催し、アンケート調査について承認をいただく予定としております。

その後、アンケート調査を秋に実施し、12月開催予定の第3回の専門委員会において調査結果の報告と啓発内容の検討を行い、翌年2月に啓発内容を専門委員会において決定したいと考えております。

その後、その内容を改めて本体会議に報告いたしまして、年度明けの早い段階で啓発内容の周知を行っていきたいと考えております。

なお、スケジュールにつきましては現時点での案となりますので、進捗状況により前後することがありますので、あらかじめ御了承ください。

事務局からは以上です。

浅野委員長

ありがとうございました。

本日の委員会において今期の調査テーマを決定するということでもあります。

調査テーマを決定するに当たりましては、委員の皆様から、こんなテーマはどうか、子どもを取り巻く状況で気になっていることなどについて御意見をいただければと思っております。

委員よりいただいているテーマ案というのもございますけれども、併せて皆様から御意見をいただきたいと考えますが、いかがでしょうか。調査テーマについてです。

なかなか口火は切りにくいと思いますので、黒須委員はこのテーマ案を出していただいたんですね。

大変恐縮ですが、黒須委員から最初にお話しいただけますか。お願いします。

黒須委員

ここに出てこないんですけど、前期のときに、新型コロナウイルス感染症の影響等に関するアンケートというのをやって、それでリーフをつくりましようみたいな感じで話を進めて行って、学校でもその調査をしていただいていたので、結構コロナ中心だったかなと思います。

今度は、コロナが大分もう収まってきているので、そういう中で急にGIGAスクール構想が勢いよく進んだ中で、子どもたちにとってすごく変化があったと思うので、その辺を調査したらどうかなと思っています。

また、急に進んだことによって子どもたちの遊びもどんなふう変わったのか、これは別々と考えるよりも、日常生活の中で子どもたちの遊びというのは、そういうパソコンが急に家庭の中とかいろいろ入って行って、学校だけじゃなくて家庭の中にも入ってきたと思うんですね、コロナ禍で。

なので、そういう中で子どもたちの遊びにはどんな変化があるんだろうとか、本当は視力の問題とかそういうのも、やっぱり外遊びが大事と言われてますよね、視力回復のためには。台湾とかはもう本当に時間を決めて外で遊ばせて視力回復に努めさせているというのをすごく前からやっているのに、日本はそういう時間的ゆとりがないのか、そこまでパソコン漬けになっていないのか分からないんですけど、何かそういう外で遊ぶということとパソコンの画面を見るということってすごく関わりがあると思うので、そういうことも調査できたらいいなと思っています。

浅野委員長

ありがとうございます。前期、調査をしたときは、これ、前期って何年前でしたっけ、コロナ禍の話って。

鈴木係長

2年前です。

浅野委員長

2年前ですと、まだ完全に日常生活が戻ってきたというところまではいっていませんでしたね。5類に移行したのは昨年5月ですから、その1年前ですね。ですから、気をつけながら生活をしている頃に、コロナ禍での実態はどうかという調査をしました。

今、黒須委員からお話がありましたけれども、小金井市立小中学校でも1人1台のICT機器が貸与されていますけれども、それはちょうどコロナ禍に当たる時期だったんですね。たしか令和2年の10月、11月だったと思います。

ですから、コロナ禍真っただ中でChromebookが貸与されてきて、相当その間子どもたちは使い込んできたというか、頼ってきたというか、そういう実態はありますよね。

昨年の5月から5類に移行しまして、もう日常的に生活が何でもできるようになって、運動会も昨年度から本校も全校児童が一遍に校庭に出て運動会を見られるということになりまして、それまでは全部入替えだったんですね、密にならないように。

そういう時期を経て今があるんですけども、そんなことも含めて今の黒須委員の御意見をお聞きして、ほかの委員の方はいかがでしょうか。何なりと御意見を言っていただければと思いますけど、いかがでしょうか。

加辺委員、お願いします。

加辺委員

加辺です。先日、先週ぐらい、小学校でセーフティ教室をやっていると思うんですけど、SNSの使い方教える側の講師をやってきました。

浅野委員長

そうですね、ありがとうございます。

加辺委員

本業はそういう仕事をしております。

その中で、そのときは4年生と5年生それぞれの授業でやらせていただいたんですけど、ちょっと手を挙げてもらおうと思って、SNSを使っている人とか、こういうアプリを使っている人とかというのを聞いたりしたり、あと、その中で同じやり取りをしながらやっていたんですけど、意外と子どもたちは結構危険な使い方しているんじゃないかなとちょっと思いました。

別に、何か悪気があって使っているわけじゃない、普通に使っていることが、大人だったら危ない、下手すると危ないというのは分かっている知らない人とコミュニケーションを取ったりすると思うんですけども、意外と、ゲームの中だけで使っているお友達がいる人って聞いたら、やっぱり手を挙げる子がいました。

そこは、ゲームを楽しくやっているだけだったら問題ないと思うんですけども、そこから発展して、そのときにもお話ししましたが、事例で、変な写真を送ると、一回写真を送ってくれて、友達になりたいからみたいなやり取りをしたら、実は友達じゃなくて悪い人だった。だんだん要求がエスカレートしてきてみたいな問題が実際にあったりするんですけど、その何かきっかけのところに足を踏み入れちゃっている子がやっぱり少なからずいるんじゃないかなというのを感じまして、もしかしたらそういうアンケートというか、そこら辺の調査をすると、もう少しどこを対応すればいいか、対策すればいいかなというのが見えてくるんじゃないかなと思いました。

浅野委員長

ありがとうございます。

御指摘のところ、よく報道されているのは、学校で各個人に貸与されたICT機器で危ない使い方をして、それが危険な行為につながっていくというのが時々報道されますよね。

たしか先日も、武蔵野市でしたっけ、盗撮をしたというのがありましたよね。学校で配られたものを使って盗撮していたというのが大問題になりましたけれども、小金井市内では学校で配られたもので何かそういった行為につながるということの大きなことというのは、少なくとも私が知っている範囲では広まっていないんですけども、ただ、今、加辺委員がおっしゃったとおり、個人持ちのスマホなど、今、子どもも持っていますから、それで我々が見ていないところで危ないことをやってというのは、実は小学校でも6年生なんかは毎年のようにありますね。学年で指導して、そんな使い方をするんじゃないところの指導は本当に毎年のようにやっています。

ですから、そういった実態というのは調べてみると少なからずあるんじゃないかなという気がいたします。

加辺委員

そのときに話を聞いてみて思ったのは、原因の半分は保護者にあると思うんです。子どもにスマートフォンを持たせるときに正しくペアレンタルコントロールという、子どもに対する設定を各社いろいろ提供しているので、正しく使ってくればきっとそんなに危ない目には遭わないんですけど、多分それをやろうとすると親にとって面倒くさい話なので、そのまま渡しちゃうという。

なので、多分、親のほうも改革というか、頭の中の考え方を変えるという必要があるんじゃないかなと思います。親も子どもも、親のほうがついていけないかもしれないですね。だから、こういうアンケートを取ったきっかけで考え直すというのもできるかもしれないなと思います。

浅野委員長

ありがとうございます。貴重な御意見をいただきました。

そのほかの委員の方、いかがでしょうか。

今、お二方の意見、共通するところがありまして、スマホですとか、ICT機器の使い方がどうなっているかということの実態調査をして、それを啓発につなげていくということですかね。そんな解釈でよろしいでしょうか。

ほかの委員の方、もちろん、それ以外の御意見もいただければと思いますけど、いかがでしょうか。お願いいたします。

あるいは、今、お二方が出されたような御意見に加えてということでも大丈夫ですけれども、順番に聞いていってもいいですか。

橋本委員からお願いできますか。お願いします。

橋本委員

これは健全育成にも大事なんですけども、青少年の問題ということで、いわゆる先生方、学校での課題というのが何かあればお伺いしたいと思うんですけど、こういうことを少し課題として取り組んだらいいんじゃないかなというふうに思います。

健全育成の立場ですと、話は替わりますけど、いわゆるボランティアですか、中学生のボランティアを募るんですけど、なかなかいろんな事情で参加できないとい

う。

小金井の子どもたちがやがて、皆さん、小金井にいるわけじゃないですけど、でも、そういう時代にボランティアに励むということはいずれにしても大切なことなので、何かその辺りのことを少し、何かいい考えがあればというようなことを感じながらいるんですけども、実際の学校の課題というのはどんなことがあるかなという現場の先生方、そのことをお聞きしたいというふうに思っています。その中から少し調査といいますか、取り上げられればいいんじゃないかなというふうに、私的に感じたことです。

浅野委員長      ありがとうございます。

学校の課題、中学校はいかがですか、金井委員。

金井委員      一口で言うのは難しいところなんですけれども、学力の問題もありますし、SNSに関わる生徒指導、いじめ等の問題というのがないわけではないですし、進路、進学に関わる場所であるとか、それに関わる保護者の意識の問題というようなところもいろいろありますし、何ともまとめにくいですね。

浅野委員長      ありがとうございます。

もちろん、小学校も一言で言えることではないですけども、もちろん課題というのは多岐にわたっているんですが、小学校でいいますと、各学校共通の課題というのは、先ほどSNSの使い方、関わり方もありましたけれども、不登校が、不登校及び不登校傾向の児童が非常に増えているんですよね。これは本校もそうですけれども、各学校で増えていると。

ただ、東京都の平均よりはまだ低いというふうには先日校長会で教育長からお話がありましたけれども、ただ、それでも増えているという課題はあります。

その不登校並びに不登校傾向の要因というのは、要するにこれだというのがないんですよね。これが非常に難しいところで、要因がはっきりしていればその対応策も考えやすいんですけども、ここにも複雑な要素が絡んで、この原因のために行けないというのがぱっとなかなか出てこないというのは難しいですね。そこが課題の今大きな一つになっています。

橋本委員      もう一ついいですか。今、加辺さんの話がありましたけれども、数年前にこの調査をしたことがあると思うんですけども、いわゆる親子関係というのがすごく大切だと、先ほど、親がどういうふうにスマホ、子どもに対して向かっているのか、これは大きなことで、いわゆる親子の関係、過ごす時間的なことがだんだん少なくなっているんじゃないかなというふうに思います。

いじめにしても一番のものはやっぱり家庭環境というか、親子関係がどうなのかということをやっと聞きたい、調べたらいいんじゃないかなというふうなことを思いました。

というのは、今、PTAのことなんですけれども、なかなかPTAもお母さん方が忙しくて、昔ほどそれぞれの活動ができないというような状況なので、その辺りが一番ネックといいますか、いじめにしても、うちの子どもが中学生のときにいじめられてありましたけれども、やっぱり家庭の状況というのは複雑であったということは、その方とはよくしていたので、よく家庭環境が分かるんですけども、やっ

ぱりそういうふうな親子の交わりというんですか、過ごし方というか、親の位置関係、お父さんと子どものいろんなものがありますけれども、それをどういうふうに親が指導していくのかということは非常に大切なんだなと。ただ与えるだけじゃなくて、その辺り、なかなか難しい課題ですけれども、取り組めるといいんじゃないかなと。

浅野委員長 ありがとうございます。前回のコロナ禍の実態の中にもそういった項目もありましたけれども、確かに普通のテーマではあるというふうには思います。

それでは、兵頭委員はいかがですか。何か御意見いただければと思います。

兵頭委員 日本はこれから労働力が不足していくというのをよく聞くんですけども、今の青少年ですか、それがどうなっているのかちょっと分からないものですか。あまり変動ないのか、あるいは減っているのか。今、社会で言われているような状況で生きていくのか。

労働力が足りないから父親も母親も働きに行って、子どもと話す機会が少ないとか、そういうような問題が出ているのかとか、ちょっとその辺を教えていただければ、私たちの問題とかじゃなくて、そこまで深刻に言わないといけないのか、どうでしょうか。

浅野委員長 小学校でいいますと、学童保育に入っている子どもたちは確実に増えていますよね。どこの小学校も学童クラブは満杯状態ですよ。結局、既存の施設だけでは使い切れなくて、学校の放課後は使っていない教室を貸して学童クラブを運営しているという実態は多くの小学校であります。

つまり、それだけ両親が共働きで、子どもをその間、低学年の子どもたちですけれども、学童クラブに預けてという数は増えています。

本校も学童クラブだけでは賄えないので、放課後は、要するに、子どもたちがふだん使っている教室というのはいろんなものがありますけど、それは貸せないですけれども、いわゆる特別教室ですね、算数少数教室ですとか、プレイルームですとか、そういったところは学童クラブに貸して、そういった変化はあると思います。

親子関係というところは共通して何人かの方から出てきた課題にもなっています。浦野委員はいかがでしょう。

浦野委員 令和元年ぐらいに教育委員会がインターネットの使い方についてアンケートを取られたような気がするんですけど、そのときに、家庭でルールを設けていますかとか、いろんな質問を子どもと保護者にしていましたけれども、やっぱりそこのそごが出ていたり、あとは、加辺委員がさっきおっしゃったように、ペアレントコントロールですか、そういったものができていなかったりということで、当時に比べて、今はまた変わっていると思いますので、どういうふうに変わっているかは分からないですけれども、その点についてちょっと興味があるということで、加辺委員と黒須委員が提案されたテーマもいいなと思っております。

それと、個人的に私の興味があるところは、コロナを経て社会全体の価値観や考え方、あるいは保護者の価値観も考え方も大きく変わったと思うんです。それを社会が推し進めているところがいろいろあると思うんですけども、それに子どもがどう影響されているのか、それに子どもがついていけているのかどうかということ

をすごく心配しているんです。

一例を挙げるならば、朝、保護者が子どもよりも先に出かけてしまって、子どもが後から鍵をかけて登校するという場面も朝の見守りをしていると見かけるんです。

そうかと思うと、保護者が、両親そろって子どもを送っていったり、自転車に乗せて学校の近くまで送っていったりという、私たちが現役の子育てをしていたときには考えられなかったような社会環境の変化や、考え方が変わってきているのかなというところが知りたいというか、興味のあるところですので、考えがまとまってはいませんが、その点についても知りたいなというふうには思っております。

浅野委員長

ありがとうございます。

本校でもすごく早く登校してくる子どもがいるんです。要するに、保護者が家を出るときに一緒に出てきて、早くあなた学校行きなさいという、まだ登校時間帯より相当前に来ている子は何人かいます。雨が降っているときなんかはそういう子はなるべく早く校舎に入れるようにしているんですけども。

3学期だったですかね、大雨かなんかで、朝、登校時刻を遅らせたときがあったんですけども、それも一斉にメール配信しても、もう出ちゃっていて、見られなくて、どんどん子どもが来ちゃったなんていうことがありました。

ですから、浦野さんがおっしゃったように、大分その辺の信頼関係というか、親子の考え方も変わってきているのかなというふうには思います。

山本委員はいかがでしょう。

山本委員

今、皆さんのお話を聞いていて、すごく親子関係というか、なかなかこの世の中がそうさせているのかなというのがひとつあります。経済の状況もそうですけれども、共働きしないと食べていけないという切実な問題があると思うんです。

私も会社を経営しているので分かるんですけど、かなり物価高、賃金も上がっているんですけども、やっぱりそれに追いついていかないというところがあるのかなと。これは致し方ない。これから当面先、このような状態が続くのであろうかというところを踏まえながらですけども、私も小学生の子どもが2人いるんですけども、やっぱり自信がないというか、子どもたちの自己肯定感というんですか、やっぱり私なんかというちょっとナイーブなところ。

ただ、例えばテレビゲームとかだと、うまくできたねとか、何か親がやっぱり褒めてあげないととか、背中を見せてあげないとというんですか、一番近いのがやっぱり親なので、それがあのかないかなというのと、やっぱり地域の中で大人がしっかりと背中を見せて行動しているかというのが一番問題なのかなと私は思います。

私は保護司をやらせていただいているんですけども、やはりその対象者となる人たちと関わっていくと、やっぱり生活環境に起源があるんです、いろんな人を見ているんですけど。やっぱり家庭環境、どんな形で育ってきたかというのが一番の問題で、後に社会に出て非行に走ったり、犯罪を起こしてしまったりだとかという事例がほとんどなので、やっぱり親、大人がしっかりと子どもたちを見てあげるというのが一番いいのかなと。

ちょっと的外れな形になっちゃうんですけども、テーマとしては、子どもたちに向けてなんですけれども、親に向けての調査、アンケートでもいいのかなと思います。

ます。ちゃんと子どもと向き合っているんですかと、何が子どもにとって一番大事な  
なんですかというところかなと思います。

浅野委員長

たしか、何期か前に、子どもに向き合っていますかという項目がありましたよね。  
子どもの権利、2期前ですか。そのときにも山本委員がおっしゃったように、親向  
けのアンケートを取って、子どもとどう向き合っているかという項目を取ったこと  
もありました。

でも、それは本当に大切なことだというふうに思いますし、そのときもアンケー  
ト結果から見えてきたことは幾つもありました。

貴重な御意見をありがとうございます。

一通り皆様から御意見をお聞きしましたけれども、それに加えてでも結構ですし、  
それ以外のことで結構ですが、何かいかがでしょうか、そのほかの御意見。

加辺委員

もう一つだけ、全く別のことなんですけど、今度は子供会側のほうです。先ほど、  
橋本さんがおっしゃっていた、健全育成でもボランティアがなかなか集まらないと  
いうのがあって、市子連でも子どもがなかなか集まらないとかいうのがあるんです  
けど、休みの日の子どもって何をやっているんだろうというのにはちょっと気になる  
ところがあります。

昔ですと、僕が小学生とかだと、例えば男の子は小学校の野球チームに入ってい  
て、土日は大体野球をやっているとか、子どもによってやっていることが大体一緒  
だったと思うんですけど、今、土日に何かイベントをやってもそんなに集まってく  
る子もいないし、集まってくる子は大体固定化されちゃってたりするので、もち  
ろん多様化しているの、家族とどこかに出かけるという機会がすごく増えている  
と思うので、別にそれは全然いいんですけど、中には一人寂しく家の中で過ごしち  
ゃっている子が実はいるんじゃないかなとか、そういう子はなるべく、何かどこで  
もいいから出ていけるような場とかができるといいなという意味で、最近は土日何  
やっているんだろうな、みんなというのにはちょっと気になるころではあります。

浅野委員長

休日の過ごし方ということですね。

加辺委員

そうですね。

橋本委員

先ほどもちょっと出ていましたけど、休日の過ごし方、親がやっぱり今、労働改  
革というか、システムといいますか、土日が休みということでない職業もたくさん  
あるので、その辺りもだんだん複雑化していつているので、やっぱりそういうこと  
が子どもの生活に大きく影響しているんじゃないかなというふうに思います。

加辺委員

もちろん、楽しく過ごせればいいんですけど、中には一人でずっと過ごして  
いる子がいたらちょっと寂しいなという。

山本委員

ちょっと関連しますけど、夜御飯を一緒に食べているのかという問題って今結構  
現れていて、子ども食堂だとか、いろんな団体が支援していると思うんです。そう  
いうのもちょっと気になりますよね。

橋本委員

だから、そうせざるを得ない、補う働きがやっぱり必要だということです。それ  
だけ多いということですね。

山本委員

結構切実ですよ。夜、菓子パン2つぐらい置いておいて、お父さん、お母さん  
は9時、10時に帰ってくると。菓子パンかじっているわけです、夜。

加辺委員 見えませんよね、なかなか家庭の中に入っちゃうと外からは見えませんよね。

橋本委員 以前、学童の延長の課題がありました、今はどんな感じなんでしょうか。

平岡課長 私が各学童を見ている限り、延長保育を利用の方はすごく少ないんですけども、ただ、例えば土曜日とか学童は開いているんですけど、いつも利用されているお子様が固定化されているとか、そういったのは若干あるというところと、いろいろ御家庭の様々な御事情があるのかなというのを感じています。

浅野委員長 山本委員がおっしゃったようなケースが実は本校でもかつてありまして、お金を与えてコンビニで晩御飯を買って自分で食べなさいとあって、親は働いていて、夕飯の時間にはまだ帰ってこれないとかいうことで、結構大きな課題になったケースは実際にありました。それは表面化しているケースで、そうじゃないのも水面下ではたくさんあるんじゃないかなという気はします。

浦野委員 たしか、それについて、朝御飯と一緒に食べていますか、夕飯と一緒に食べていますかという質問項目があったのが5期目だか4期目のアンケートにあったと思いますので、それと比較してみるのもまた興味深いことじゃないかなというふうに今感じました。

浅野委員長 ありがとうございます。

確かに、この間の調査テーマを並べていただいていますけれども、もう何年もたっている調査項目もありますから、そこをもう一回、同じようなことで経年変化というものを調べてみるというのも非常に興味深いところではありますね。

たくさん御意見いただきましたけれども、そのほかいかがでしょうか。

鈴木係長 事務局からよろしいですか。

浅野委員長 お願いします。

鈴木係長 本当にいろいろな意見をいただきまして、ありがとうございました。

皆さんからいただいた御意見について、事務局としての考え方といいますか、その辺りを伝えさせていただければと思うんですけども、親子関係のお話のところ、親御さんの就業状況ですとか、あとは、子どもが休日どのように過ごしているかという部分の実態につきまして、ちょうど今年度、小金井市の子ども施策の最上位計画である、のびゆくこどもプランという計画があるんですが、その改定作業を、今、子育て支援課で行っておりまして、そこで、市内に住む親御さんとかお子さん本人にアンケート調査を行っているんです。その中に非常に似たような調査項目があるので、その結果がまとまれば御紹介できるような部分になるのかなというふうに思っております。

あと、食事を親御さんと一緒に取っているかとか、ちゃんと取っているかというアンケートに関しては、食育推進計画というのを健康課でつくっているんですけども、そちらが行っているアンケートでそういった項目を聞いているという実態はあるのかなというふうに思います。

そういったところを踏まえて、ほかの課とかであまりアンケート等を最近やっていない部分でいうと、SNSのお子さんの使い方とか、親御さんの関わり方というところは直近のところではやっていないのかなというところは事務局として感じております。

テーマとしても取り上げて、お子さんはもちろん、親御さんに対して周知するところも一定効果があるのかなというふうに思いました。

浅野委員長

そうしますと、繰り返しになりますが、現在、小金井市として調査をしていたり、まとめたりしているものについては、それをもって皆様の御意見で出されたものについて確認できるという可能性はあるということですよ。

ですから、ここで全く新たなところで調査をするということを考えますと、今、事務局がまとめてくださったように、皆様の御意見の中では、SNSの使い方、それに対する保護者の関わり方、さらに、親子でのSNSに限らず、関わり方というんですか、親子関係といったところは多くの皆様からも出されたところだと考えますけれども、そのようなところを事務局の方で最終的にまとめていただくというようにすることで投げてもいいんでしょうか。

鈴木係長

テーマ案としてそちらを取り上げるということで御了承いただければ、浅野委員長がおっしゃっていただいたとおり、事務局でその方向で進めていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

浅野委員長

では、確認ですけれども、皆様の意見を全て集約できずに大変申し訳ないんですけれども、多く出されたところでいいですよ、SNSの使い方ですね。そして、それを含めた親子関係というか、保護者の関わり方といったところでテーマをつくれそうのように思われますけど、そういったところで決めていくということによろしいでしょうか。金井先生もよろしいですか。

(「はい」の声あり)

では、事務局の方々にはお手数をおかけいたしますけれども、そういったところで今期の調査テーマを確定していただければと思いますので、どうかよろしくお願いをいたします。

それでは、続けて事務局から何かございますでしょうか。

鈴木係長

それでは、今期のテーマにつきましては、浅野委員長でまとめていただいたとおり、SNSの諸実態とか親との関わり方というところで事務局で今後進めていきたいと思っております。

実際にこの後、アンケート調査をお子様と親御さん両方に取ったほうがいいのかなと思いますので、その調査内容の案を事務局で検討させていただきまして、次回の専門委員会のときにそれについて御議論をいただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

先ほども御説明差し上げましたが、次回の専門委員会は今のところ8月開催を予定しておりますので、日程が決まり次第、また御連絡をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

浅野委員長

これまでもそうですけれども、そのアンケート調査内容を議論するに当たって、事前に委員の皆様にはそのアンケートの案というのを送っていただいていたよな。

鈴木係長

ある程度項目とか内容が決まりましたら、あらかじめ事前にメールや文書等でやり取りをさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

浅野委員長

ありがとうございます。

そうすると、皆様がアンケートの案について御意見をお持ちになって、当日、この会に参加いただいて、そこで協議ができますので、そのように進めていただければと思います。

本日の議題の2、調査テーマについて、それから、今後のスケジュールについては今お話しいただきましたので、次回はまた日程調整等をして御連絡させていただくことになると思いますので、よろしくお願いいたします。

では、その他、議題3ですけれども、事務局、ございますでしょうか。

鈴木係長

会議開催前に口座の用紙をお配りさせていただいた方につきましては、終了後、回収をさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

浅野委員長

ありがとうございました。

委員の皆様からほかに何か御発言等ございますでしょうか。

では、ないようですので、皆様の御協力により、本日の議題を全て進めることができました。

以上をもちまして、令和6年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会を閉会といたします。本日は誠にありがとうございました。